

ふれあいの祭典民俗芸能祭に県内4団体が参加

昼公演は「兵庫ふれあいの祭典民俗芸能祭INかずらはた」として、郷土民俗芸能の復活と後世への伝承活動をめざして地域に根ざした活動を行っている県内の4団体が参加しました。地元・農村歌舞伎葛畑座をはじめ春日戦国太鼓保存会、柏原八幡神社神事芸能保存会、赤穂浜鋤き唄保存会の皆さんが、日ごろの取組みの成果を發揮して観衆を沸かせました。

新版歌祭文 「野崎村」久住住処 の場、葛畑三番叟

(農村歌舞伎葛畑座)

新版歌祭文「野崎村」久住住処の場は、江戸時代に大阪で実際に起こったお染・久松の心中事件を題材とした物語。葛畑三番叟は、五穀豊穡を祈願する踊りで、今回の公演にあたって新しく振付けを行いました。



「お染」と「久松」の心情を熱演
(野崎村より)



▶物語を熱演する葛畑区の皆さん

豊年かさおどり、もちつき踊り

(柏原八幡神社神事芸能保存会)

昭和52年の設立以来、各地のイベントに出演。国民文化祭など国内の活動とともに、シドニー・オペラハウスなど世界の舞台にも出演されました。

演目の「豊年かさおどり」は神社の雨ごいに踊られていたもので、「もちつき踊り」は西暦1450年頃、正月に新米を持ち寄って豊作・家内安全を祈願して行われた行事。もちつき踊りは昭和61年に50年ぶりに復活しました。



▶地域の伝統行事を伝える踊り
(豊年かさおどり)



▶のどかなメロディーと塩田作業を表した振付け(赤穂浜鋤き唄)

赤穂浜鋤き唄

(赤穂浜鋤き唄保存会)

昭和56年に発足し日本民謡全般にわたって幅広く活動。特に地元民謡の伝承活動に力を入れて取り組まれています。

「赤穂浜鋤き唄」は昭和30年頃まであった塩田作業に実際に唄われていたもので、過酷な作業を少しでも和らげるために唄っていたと言われています。



▶戦国時代の激しさを表現した迫力ある演奏(丹波の赤鬼)

丹波の赤鬼

(春日戦国太鼓保存会)

春日戦国太鼓保存会は発足後15年が経過し、地元はもとより花博など各種イベントやフランス・ニースカーニバルにも参加するなど活躍されています。

「丹波の赤鬼」は、戦国時代の黒井城主・赤井悪右衛門直正率いる丹波国人衆がそう呼ばれていたことから名づけられ、激しい戦いの様子を表現した勇壮な演奏です。